

東京都立田園調布高等学校

【校長】 福原 利信
【生徒数】 698名
【学級数】 18学級



【課題・改善】

- 生涯を通じて生徒が自らの健康や環境を管理し改善していくための意識向上につなげることができたが、資質・能力の育成のためには、年2回の協同授業だけでは難しい。

【今後の取組】

- 生徒が生涯を通じて健康に過ごしていけるよう、今後も継続的に産婦人科医などの外部機関と連携し、実践していく。

目標

- ・ 生徒が生涯にわたって健康で過ごすために、現代の健康に関する諸問題とその解決法について理解したうえで、適切な意思決定・行動選択がとれるようにする。

【成果】

- **生徒の意識に関する成果**
性に関する知識を専門家から聞いたことで、1学年の9割以上の生徒が「学んだ内容が今後役に立つ」と回答した。
- **生徒の態度に関する成果**
科目保健や家庭科の授業で学んだ内容が、今後の人生にどのように生かされるかを理解し、学習に意欲的に取り組むようになった。
- **その他（教員の授業改善など）**
公開授業及び研究協議には保健体育科、家庭科、養護教諭以外の教員が参加し教科等横断的に性教育に取り組む意識が涵養された。

【実態・課題】

- 体力合計点平均値等が東京都の平均値を下回っている。
⇒ 日頃の運動習慣を身に付け、生涯の健康につなげるようにする。
- 夜遅くまでスマートフォンを操作していて、睡眠時間が十分に確保できていないことがある。
⇒ 現在の生活習慣が今後の健康にどのように結びつくか考えるようにする。
- 自分の食生活に関心をもてないことがある。
⇒ 食事と体の関係について理解できるようにする。

【取組】

- **科目保健の授業におけるアクティブ・ラーニングの推進**
⇒ 生徒が主体となって生涯の健康について考えるきっかけをつくる。
- **教員の指導力を向上させるために、先進校視察・校内研修会を実施**
⇒ 教員の指導力向上
- **産婦人科医を招へいした授業の実施**
⇒ 生徒の性に関する正しい知識の習得

【取組（詳細）】

○ 科目保健の授業におけるアクティブ・ラーニングの推進

科目保健の授業では、一人1台端末を活用しながら、身近な健康課題に向き合い、解決法をまとめ話し合うことで、今後、健康に生きていくために必要なことを主体的に学ぶことができた。

写真1



写真2



写真1：グループでテーマを決めて、現代の健康課題について調べている様子
写真2：調べた内容を他グループへ発表している様子

○ 教員の指導力を向上させるために、先進校視察・校内研修会を実施

教員の指導力向上を目的に、養護教諭は専門家を招いての教員対象の研修会を開催した。また、家庭科教諭は先進校や施設への訪問をし、学んだ内容をもとに授業の改善を図った。

- ・ 家庭科教諭→愛知県立一宮高等学校、八丁味噌工場施設訪問
- ・ 養護教諭→6月：学校医による食物アレルギー教員研修

12月：スクールカウンセラーによる最近の生徒が抱える課題と対応法

写真3

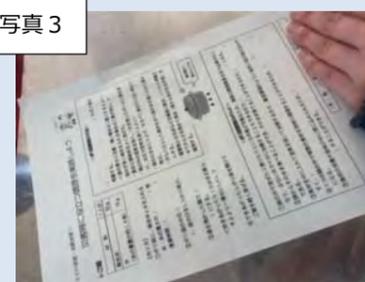


写真4



写真3：家庭科教諭による先進校視察の様子
写真4：スクールカウンセラーによる教員研修会の様子

○ 産婦人科医を招へいした授業の実施

2回にわたって産婦人科医を招へいして授業を実施した。実際に治療にあたって医師から話を聞くことで、生徒は自分自身に関係ないと考えていた内容を、生涯の健康のために必要なことであると捉えるようになった。

授業内容

- ・ 11月：妊娠法と中絶について（アメリカの事例を参考にして）
- ・ 12月：月経困難症、性感染症とその予防法、子宮頸がんとHPVワクチン

写真5



写真6



写真5：若手産婦人科医を招聘した授業の様子
写真6：産婦人科医を招聘した授業の様子